

## 第26回九州地区国立大学間合宿共同授業報告書

<https://doi.org/10.15017/21726>

---

出版情報：九州地区大学一般教育研究協議会議事録. 26, 2002-03-25. 九州大学大学教育研究センター  
バージョン：  
権利関係：



◇ ◇ 編 集 後 記 ◇ ◇

最初に、本報告書の発行が例年と比べて大幅に遅れたことを深くお詫び申し上げます。合宿共同授業が終了した直後の9月になって、来年度以降の合宿共同授業の実施あるいは存続にも大きな影響を及ぼしかねない大事件が発生したのです。本報告書の原稿はほぼ予定どおりに収集でき、総合的な編集に着手しアウトラインもほぼできあがったときに、その後の編集を一時的に中断したのです。その大事件の顛末は省略しますが、結果として、来年度の第27回九州地区国立大学間合宿共同授業が大きく変わることになりました。

今年の第26回九州地区国立大学間合宿共同授業は、第24回時からの実施にあたっての共通キーワードである「実施運営のスリム化」の達成度を把握するための区切りの年度であると、個人的には企画段階から考えていました。しかし、その大事な今回の合宿共同授業の準備に当たって主管大学の担当者である私の不手際が何度もあり、当番大学の長崎大学の教職員のみなさまには多大のご迷惑をおかけしました。お詫びと感謝の気持ちで一杯です。

さて、その合宿共同授業を振り返ってみると、当番大学である長崎大学の細やかで色々な点にまで行き届いた配慮により、『見事』という表現が当てはまるスムーズな実施運営が行われました。それにより、前述の「実施運営のスリム化」の目標は十分に達成さえ、今後の実施の模範といっても過言ではないと思います。

また、「循環・共生型社会をめざして」のメインテーマは時機を得たものであり、その切り口である「環境」を学習する上でも、最適なテーマでした。そのため、参加学生の関心の強さを合宿期間中に何度も感じました。

休憩時間にすでに分別されたペットボトルをさらに、口の部分、ふた、ラベル、本体とに分別し、種類毎の袋がほしいといった学生が複数いたことには、私自身の「ゴミ」や「リサイクル」などに対する認識の低さ（なさ？）を痛感させられました。

閉講式で、長崎大学の橋本先生が「環境に配慮でき、共生するための第一歩は対する人、モノ、事象をよく知る（理解）することだ」とお話になりました。

この言葉と同じようなことを、本報告書の編集中の12月初めにNHKのラジオ番組で聞きました。環境をテーマにした話し手の方の北米での体験談が中心でした。体験談は、環境に関する住民大会の会場で、参加者同士の交流の時間になって、司会者が「環境保護についてどうお考えですか？」とかたどおりの質問をしている最中に、隣にいた老人が「環境保護をするなら、まず、あなたと私が仲良くなりましょう」と言ったそうです。

今回の合宿共同授業参加者にとって、「循環・共生時代」に生きるための新たな一步を踏み出すきっかけとなったことを確信しています。

最後に、参加者のみなさん、ありがとう。

(九州大学 渡邊正治)

発行日：2002年（平成14年）3月25日  
発 行：九州大学大学教育研究センター  
〒810-8560  
福岡市中央区六本松4-2-1  
Tel 092-726-4506（ダイヤルイン）